

氏 名	陳 榮 松 チン エイ ショウ
学位の種類	農 学 博 士
学位記番号	農 博 第 165 号
学位授与の日付	昭 和 48 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 1 項 該 当
研究科・専攻	農 学 研 究 科 農 林 經 済 学 専 攻
学位論文題目	バナナ経済分析 —台湾バナナを中心として—
論文調査委員	(主 査) 教 授 中 嶋 千 尋 教 授 貝 原 基 介 教 授 菊 地 泰 次

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、台湾におけるバナナの生産と輸出およびわが国におけるバナナの輸入と流通と需要とを、近代経済学的農業経済学の立場から、体系の一貫的に分析解明したものである。

著者はまず、台湾におけるバナナ生産の経営分析を行なっているのであるが、その際バナナを生産費と収益性について年次別・経営規模別・地域別の比較検討を行なっている。ついで水稲二期作と大豆との輪作・水稲二期作とタバコとの輪作・パイナップル作およびポンカン作のそれぞれとバナナ作との収益性の比較検討を行なっている。そしてそれらの結果から、バナナ作の収益性を規制する主要要因を明らかにし、進んで台湾バナナの収益性改善に関する問題点を明らかにしている。

つぎに著者は、台湾におけるバナナの輸出制度、日本におけるバナナの輸入制度、日本におけるバナナ流通の各段階での各経済主体の機能およびマージンを実証的に分析解明し、進んで流通の各段階での価格決定機構を実証的に解明している。そしてさらにバナナの生産者手取り価格の妥当な水準についての検討を行なっている。またバナナの各流通段階における流通マージンを、日本における国内産果実やアメリカにおける青果物の流通マージンと比較検討を行なっている。そして台湾バナナの流通に関する若干の改善策の提言を行なっている。

つぎに著者は実証に基づき、わが国の台湾バナナの輸入市場を双方独占的市场として捉え、またわが国のバナナの浜市場を供給が完全非弾力的な市場として把握し、これら両市場における価格決定機構を理論的に分析解明している。

最後に著者は注意深く計量経済学的手法を用いることにより、わが国のバナナの浜市場および小売市場のそれぞれにおける需要関数の計測を行なっている。そして小売市場の需要関数の計測結果を用いて、関税率の変更がバナナの小売価格および需要量に及ぼす効果を計測している。

論文審査の結果の要旨

バナナという特定農産物についての経済分析は諸外国においても稀であるが、わが国においてはとくに稀である。台湾バナナはその生産量の約7割が輸出され、しかもその大部分は日本向けの輸出なのであるが、本論文は台湾バナナを中心として、台湾における生産からわが国における消費までの全過程を理論的・実証的に分析解明したところの、ユニークでかつ体系的・一貫的な農業経済学的研究である。

著者はまず台湾におけるバナナ生産の経営分析において、年次別・経営規模別・地域別に生産費および収益性の比較検討を行ない、また競合的な他の作付方式とバナナ作との収益性の比較検討を行ない、それによってバナナ作の収益性を規制する主要要因を明らかにし、進んで台湾バナナの収益性改善に関する問題点を明らかにしている。これらは農業経営学上高く評価される。

つぎに著者は、台湾および日本における貿易および流通の制度、各流通段階における各経済主体の機能およびマージン、各流通段階における価格決定機構を分析解明している。とくに流通マージンに関しては、わが国における国内産果実やアメリカにおける青果物の流通マージンとの比較検討を行ない、台湾バナナの流通に関する若干の改善策を提言している。これらは農産物流通市場論の立場から高く評価される。

つぎに著者はわが国における台湾バナナの輸入市場を双方独占市場として捉え、またわが国のバナナの浜市場を供給が完全非弾力的な市場として捉え、これら両市場における価格決定機構を理論的に分析解明している。著者はさらに、わが国のバナナの浜市場および小売市場のそれぞれにおけるバナナの需要関数を、注意深く計量経済学的手法を用いて計測している。そしてさらに小売市場での需要関数の計測結果を用いて、関税率の変更がバナナの小売価格および需要量に及ぼす効果を計測している。これらは農産物価格論および貿易論の分野に貢献するところが多い。

よって、本論文は農学博士の学位論文として価値あるものと認める。